

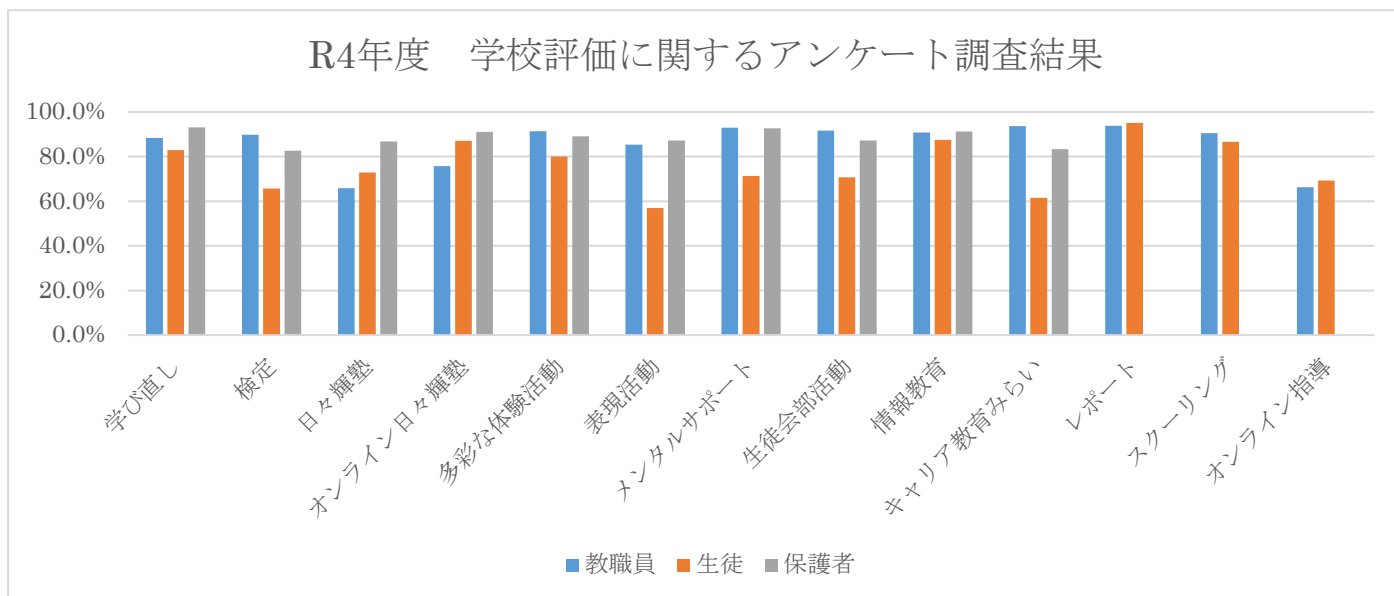
令和4年度 日々輝学園高等学校 学校評価（自己評価）

令和4年度基本データ

【教育目標】主体的に学び自己の「よさ」を伸ばす真の個人としての自覚と自信をもって生きる人間の育成

【生徒数】1,426名

【教職員数】153名



肯定的な意見の割合

	学び直し	検定	日々輝塾	オンライン日々輝塾	多彩な体験活動	表現活動	メンタルサポート	生徒会部活動	情報教育	キャリア教育みらい	レポート	スクーリング	オンライン指導
教職員	88.4%	89.8%	65.9%	75.7%	91.5%	85.4%	92.9%	91.6%	90.8%	93.8%	93.8%	90.6%	66.3%
生徒	83.0%	65.8%	72.8%	87.1%	80.1%	57.0%	71.3%	70.7%	87.5%	61.5%	95.1%	86.7%	69.2%
保護者	93.1%	82.7%	86.8%	91.1%	89.1%	87.2%	92.7%	87.3%	91.3%	83.4%			

学校評価（自己評価4段階で評価 A:良好、B:おおむね良好、Cやや不十分、D:不十分）

評価項目	具体的取組み	達成状況	評価	次年度への改善点	
学ぶ力	学び直し	<ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストやレポート等で生徒一人ひとりの学力を把握。 1年生は国数英で「すらら」を活用する一方で、2,3年生も適宜レポートやプリント等で振り返る。 レポートに生徒一人ひとりの学習の状況に応じた解説や自学自習を進めていく上でのアドバイス等を記載し、定期試験や基礎力診断テストで学習の定着を確認する。 	基礎力診断テストより全体的に学力は改善されている。また、「すらら」の活用についても工夫を凝らして取り組み、目標達成率の改善に努めることができた。アンケートでは教職員はもとより、生徒や保護者からも高い評価を得ている。	A	年度当初に学習サイクルを定着させるとともに、「すらら」活用については教員間の連携の強化や生徒への声掛けを改善していく。
	検定指導	<ul style="list-style-type: none"> 漢検や英検、情報系の検定について、生徒の能力・学力とのマッチングを図 	全体的に受検者数は減少傾向にあるが、上	B	検定の目的や意義などのガイダンスを十

		り、各種検定試験へ適切に挑戦させる。 ・対面指導や日々輝塾の中で、検定に関する指導を行う。 ・全体で、または個人別に検定結果を振り返らせる。特に不合格者については不合格の原因を分析するなど丁寧に指導する。	位級への合格者数は例年並みであったことから、合格率は上昇している。 アンケートでは、教職員からは高い評価を得られているが、生徒にとってはそこまで十分ではないと考えられる。		分に行い、積極的な受検に繋げるとともに、受検までのフォローや受検後の指導を見直していく。
	日々輝塾	・日々輝塾で一人ひとりの目標を定め、定期的に開催し取組む。 ・日々輝塾を定期的に開催し、生徒へも参加を促す。 ・定期的に目標に向かってどの程度達成されているのか振り返りながら取り組ませる。	年間をとおして継続的に実施できた。また生徒への連絡も改善されてきている。 アンケートでは、教職員からは高い評価とは言い難いが、生徒や保護者からは高く評価されている。	B	定期的な振り返りを行い、生徒たちが成果を確認し、より高いモチベーションを持てるようにする。
	オンライン日々輝塾	・希望した生徒に対しオンライン日々輝塾を定期的に開催し、参加を促している。	年間をとおして定期的に開催することができた。 アンケートでは、教職員からは高い評価とは言い難い、生徒や保護者からは高く評価されている。	B	生徒の希望なども聴き取りながら、魅力ある講座を作っていく。
心の力	多彩な体験活動	・事前学習で目的や内容を指導する。 ・体験学習後に振り返りの時間を設定し、目的や内容を振り返らせる。 ・地域のボランティア事業等に参加する。	コロナ禍ながら各校舎で体験学習に取り組むことができた。 アンケートからは、生徒の評価は落ちている一方で、体験をやりたい等の声もある。	A	コロナ禍の影響が減りつつあるので、以前のようなリアルな体験をより積極的に行っていく。
	表現活動	・学校内の行事や地域の行事で積極的に発表する。またコンクールへの参加や、出版物の発行などを行う。 ・表現活動の場に向けて、計画的に取り組む。 ・表現活動後に、評価する機会を設ける。	文化祭のリアルでの実施、国際高校美術展への出展、等を通して表現活動を行った。 アンケートでは、教職員からは高い評価を得られているが、生徒にとってはそこまで十分ではないと考えられる。	B	来年度も文化祭をはじめ、各種行事に取り組むとともに、地域との連携を深める。また、国際高校美術展にも参加していく。
	メンタルサポート	・教員とカウンセラーが連携するとともに、カウンセラー便りなどで情報を発信。 ・教員とカウンセラーが連携する会議を設ける ・教育相談を基に、指導計画などを立て取り組むとともに定期的に振り返る。	教員との連携や情報発信を行うことができた。また ICT を活用しながら相談を受けなどの体制もできている。 アンケートでは、教職員・保護者からは高い評価を得られている。また生徒からの肯定的な意見の割合は高くなっている。	B	来年度も引き続き連携を深めるとともに、ICT の活用などにより、より効果的なサポートを行っていく。
社会と関わる力	生徒会 部活動	・生徒会や部活動を組織し、年間の目標を定め、計画に基づいて実施。 ・生徒個々の能力や個性に基づき、各活動への参加を促す。 ・定期的に活動について振り返り、評価	部活動については、一時期低下した加入率も回復しつつあり、参加促進もできている。また振り返りについ	B	ICT 等を活用して生徒により効果的な振り返りや評価を行っていく。 部活動ではコロナ禍

		する。	ては ICT を活用し効果的に行うことができた。 アンケートでは、教職員からは高い評価を得られているが、生徒にとってはそこまで十分ではないと考えられる。		で活動量の減った分を回復させていく。
	情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全校や個々の対面指導等で情報モラル教育を実施。 情報処理に関する指導の実施。 ・対面指導や日々輝塾を通して指導を行う ・定期的に活動について振り返り、評価する。 	情報モラル教育を実施するとともに、対面指導時においても指導を行った。 アンケートからは、教職員はもとより、生徒や保護者からも高い評価を得ている。	A	継続的に指導を行うほか、最新の事例なども取り入れ、情報に関する教育を高める。
	体験型キャリア教育みらい	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携、高専連携、よのなか学習プログラム、インターンシップ体験を実施。 ・二者面談や三者面談の実施。 進路コーナーを設置しての情報提供。 ・自らのキャリアについて考えさせ、今取り組むべきことを理解させる。 	大学や専門学校との連携やインターンシップなどの行事を実施した。 アンケートでは、教職員からは高い評価を得られているが、生徒にとってはそこまで十分ではないと考えられる。	B	大学や専門学校との連携を引き続き行うとともに、キャリアについて考えさせる機会を増やしていく。
その他	レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・対面指導とレポートの内容を合致させる。 	レポートが作成できるよう、ポイントを押さえて対面指導をおこなった。 アンケートからは教職員はもとより、生徒からも高い評価を得ている。	A	来年度も対面指導とレポートは内容を合致させ行う。
	スクーリング	<ul style="list-style-type: none"> ・スクーリングが単位修得に不可欠であることを生徒へ理解させる。 ・スクーリングの日時は事前に知らせる。 ・学習内容の振り返りやレポートの解説を行う。 ・今後の学習の見通しが立てられるようにする。 	スクーリングに関する説明や連絡はクラスルームなどを活用して十分に行うことができた。 アンケートからは教職員はもとより、生徒からも高い評価を得ている。	A	振り返りからさらに今後の見通しが立てられるようにする。
	オンライン指導	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの特徴を活かした指導を心掛ける。 	定期的にオンライン指導を実施。クラスルームを通して指導する等した。 アンケートからは、教職員はもとより、生徒からもそこまで高い評価を得られていない。	B	さらにオンラインの特徴を活かして活用できるよう努力する。

☆今回のアンケート結果について教職員と生徒の間で大きな差が見られるのは、「表現活動」、「生徒会・部活動」、「キャリア教育みらい」であり、これらはコロナ禍により活動を自粛したり制限したりしたものがある。生徒や保護者からの回答でも「来年度は以前のように活動したい」「リアルな活動をしたい」などの意見があり、本年度は代替の活動なども行ったが、不十分であったと考えられる。また、「メンタルサポート」についても、コロナ禍を意識してこれまで以上に生徒に寄り添うことが必要であったと考えられる。